

「家庭学習の記録を通して 成長してきた生徒たち」

足利市立毛野中学校教諭 赤羽和夫

① S夫くん 中学2年 男

気のやさしい生徒であり、成績は上位。1年のころはハリキリボーイだったが、1年の夏休み中、腎臓にかかり、それ以来体育は見学、体調もすぐれず。

さて、学習の記録であるが、こんなわけで体調の悪い彼に、あまり無理な注文はせず、ノンビリとさせている。しかし、本人は学習の記録をいろいろくふうし努力している。例えば、予定の欄に赤や青などで色分けして記入し、その後実行時間を記入しては予定と比べ、「今週は何パーセント実行した。満足である。」「今週はまだ努力がたりない」……などと自己反省を加えながら、記入している。

1学期の記録を見ると、勉強時間は4から11時間（毎週の平均は7時間で1日平均1時間）であり、テレビ時間はその倍の13から17時間（毎週の平均は15時間半で1日平均2時間10分）である。もちろんテストが近づけば、時間は伸びるが期末テストの頃、10時間40分（1日平均1時間30分）が最高であった。

これが、2学期になると、勉強時間は7から18時間（毎週の平均は14時間で1日平均2時間）と増え、テレビは5から13時間（毎週の平均は10時間で1日平均1時間30分）と減少してきた。1学期と比べ全く逆である。テストのところも、17時間40分（1日平均2時間30分）とすばらしい伸びに感心した。当然成績も向上し、1学期の中間テスト24位、期末テスト13位から2学期は中間テスト10位、そして、期末テスト8位と着実に伸びてきている。

3学期は、初めの頃かぜを引き、勉強時間が4時間という週があった。それを、とりもどそうという気持ちからか、早くも15から17時間とハイペースで勉強している。腎臓は、ほとんどオーケーだが、時々医者へ行って調子をみているようだ。再発を恐れ、10時寝床、7時半起床の生活を守っている。クラスでは、男子5.6人が互いに競争し、テストごとに男子のトップは入れ替わる。その結果、1学期の中間テストの男子のトップは18位だったが期末テスト13位、2学期の中間テスト10位となり期末テストでは5位である。1学期中間テストのベストテンは女子ひとりだったが、2学期の期末テストでは女子ひとり男子3人とすごい躍進ぶりである。これは、やはり記録を通して競争し出したおかげだと思う。

② M夫くん 中学2年 男

とてもチビであるが、いつもニコニコのファイトマンである。成績は中位。1年のころは、83位、66位、77位、78位と振わず。2年の1学期は、勉強時間の最高が5時間30分（1日平均50分）であり、毎週の平均は3から4時間で中間テストや期末テストになっても、あいかわらず時間が伸びず。テレビ時間のほうは、最高14時間30分（1日平均2時間）であり、毎週の平均は12

時間以上である。これは勉強時間に比べ、3倍から4倍というひらきである。そのためか、成績も64位、79位と不振続き。5月の家庭訪問の時、家族全員「こいつはチョロでバカだから……」と頭からいつも、おさえられている。その後、夏休みに訪問し、兄（現在高校2年生、中2中3と私の受け持ちだった）に弟の応援を頼む。

本人は夏休みから始めた新聞配達を、2学期になっても止めずに張り切っていたが……。(実はハトが飼いたかったらしい)新聞配達は朝が早いので、早寝早起きのため、勉強もテレビもさっぱり……。勉強時間の最高が、2時間50分(1日平均30分)、テレビ時間は最高が4時間(1日平均30分)。家庭での勉強はやらないし、午後の授業はねむくなり先生方に注意される……というわけで早速、本人と面接相談すること数回。(教室や相談室利用)ようやく、ハトを飼うことを断念し、新聞配達も止めることを決意した。両親からも、いろいろ注意されたい。そんなわけで、勉強時間が伸びず、2学期の中間テストも、また、63位で終わってしまった。しかし、この新聞配達を通して(7月から9月)毎朝、自分から早く起きて仕事を続けたので「こいつは根性がある」と家族の、彼に対するみかたがだいぶ変わってきた。この態度の変化により、彼は、だいぶ自信を得たようだ。もちろん、兄の応援も見落とすことはできない。毎夜、兄弟1緒に夜食をとりながらの勉強。高校のテストと中学のテストが同じ週だったということもあって、ますます油が乗ったようだ。このころから、勉強時間は10時間(1日平均1時間30分)とふえ、逆にテレビ時間は4時間(1日平均30分)と減少した。1学期のころとはまったく逆である。

勉強に時間をかけてみて、堂々28位に食い込んだ。これは、もう完全に自信になったようだ。1学期ごろ「プリントを失くした」「プリントを忘れた」と言って提出しない週が、数回あったが、3学期からは、必ず書いて提出するようになってきた。

2学期後半のペースで今夜もまた兄と張り切っている彼。「俺がいつもラーメン作り」あの言葉が聞えるようだ。今度のテストが、楽しみである。

③ K子さん 中学2年 女

とても明るくてすなおであり、すべてに積極的な生徒である。成績は優秀でトップである。

1学期の勉強時間は、5から24時間(毎週の平均は7時間で1日平均1時間)である。中間テストのころは24時間30分(1日平均3時間30分)であり、期末テストのころは13時間30分(1日平均2時間)である。要するに普段も勉強しているがテストとなると集中して勉強するのである。(成績の悪い生徒の場合は、テストの時になってもさっぱり勉強時間が伸びない)一方、テレビ時間は7から15時間(毎週の平均は11時間で1日平均1時間30分)である。

2学期になると、テレビ時間は減り、4から14時間(毎週の平均は7時間で1日平均1時間)となった。勉強時間は、中間テストのころ23時間(1日平均3時間20分)であり、期末テストの頃は14時間30分(1日平均2時間)であった。しかし、テストが終わると6時間(1日平均50分)と減ってしまうのが残念であった。

3学期になって、ようやく勉強時間が安定してきたようだ。まだ、テストの週ではないのに12から20時間(1日平均1時間30分から3時間)とがんばっている。これは1月に全校で三者懇

談会（本人と父兄と教師）を行なうべきようであると考えられる。テレビも10から13時間（1日平均1時間30分から2時間）である。とにかく「テストの時、集中的に勉強する姿」から「普段からガッチリ勉強する姿」に変わってきている。今度こそ、彼女の念願する800点突破も実現しそうである。（本校では1教科100点としている。1年の時から1位2位3位のところでいつもがんばっているが、いまだに800点を越せず……）

感 想

家庭学習の指導について、学校として系統性と一貫性を持って、適切な計画のもとに実践された記録として、推奨に値する。最初に、生徒の自主的学習態度の育成の手がかりとして、生徒の実態調査、教科の落ちくぼみの発見、家庭の学習環境（人的・物的）の調査などを実施して、対策を考えている。これは、単なる思いつきや、想定で対策を考えているのではなく、家庭学習に正面から取り組んでいる姿といえよう。

特に学習の記録や生活の記録をとらせたことは有効な方法であり、「家庭学習の記録をとおして成長してきた生徒たち」は、その貴重な実践記録である。学習の記録と学習成績との関連のうえに立って、ひとりひとりの生徒を指導してきたことは指導の計画が地についたものといえよう。さらに、家庭学習における個別指導と集団指導の観点が適切に細かな配慮のもとにたてられているが、これが、このとおりに実践されれば、その効果はおおいに期待できよう。特に親と生徒と教師の三者懇談は、昔から言われていることであるが、重要なことであろう。最後に、自主的学習態度の指導について、診断テストや追跡調査などいくつかの項目をあげているが、究極には、授業の中にひとりひとりの家庭学習を生かすことと、教師と生徒のコミュニケーションについて、人間的なかわりに目をつけていることは大事なことである。